

JWTC Japan Women Travel Club NEWSLETTER

JWTC ニュースレター

vol.34

Autumn 2013



ご挨拶

JWTC 日本旅行業女性の会 会長 戸井川裕美子

日ごろの当会へのご支援、ご協力に、心からお礼申します。

当会も創立して、33年になりました。2013年は、「広げよう人の輪 旅の輪」をテーマとして活動をしてまいります。ささやかな任意の団体ではございますが、自分たちの研鑽ばかりでなく、旅行業界のためにも地道に歩んでまいりたいと考えております。

創立からこれまで、世の中の変遷とともに、旅行業界ならびに取り巻く環境の変化は、皆さまご存知のところだと思います。オフィス内の連絡一つをとっても、テレックス、ファックスそしてメールへと変わってきました。すべてがスピード化され、ついていけないものは取り残される時代になってまいりました。

当会も創立メンバーの方々の思いを大事にしながら、この時代にあわせて変化をしなければならないと痛感しています。創立メンバーの方々の思いをきちんと継ぎ、今の時代にあわせて変化し、次の時代につないでいくことが、現会員の役目と考えとおります。

さて、その手始めとして、このたび当会の活動などをお知らせしている「JWTCニュースレター」を大きく刷新いたしました。

IT化の進んだ今の時代において、はたして「紙による情報発信は必要か?」と、問われるかもしれませんが、このような時代だからこそ、自分たちの考えや気持ちをこめて、お届けしたいと考えました。紙面も大きく、カラーにページ数もふやしました。また発行部数も大幅に増やしました。

まだまだ試行錯誤中ではございますが、会の活動ばかりでなく、旅行業界のさまざまな視野に立った記事を掲載できればと考えております。もし、お気づきの点などございましたら、遠慮なくご指摘いただければ幸いです。

一人でも多くの方に目を通していただき、当会へのご理解をいただければ何よりです。何卒 よろしくお願い申し上げます。

広げよう！
人の輪 旅の輪

会長 戸井川裕美子



女性力と価値創造産業へのチャレンジ

JWTC 活動報告

JATAXJWTC第1回勉強会

日本旅行業協会 菊間潤吾会長 講演採録

観光ジャーナリスト 千葉千枝子

去る2013年7月、JATA菊間潤吾会長を講師に「女性力と価値創造産業へのチャレンジ」と題した勉強会を催しました。80名を超す聴講者が、会場のJATA会議室（東京・霞が関）をうめつくしました。

日本旅行業協会 菊間潤吾会長 講演採録

大勢の聴講者を前に冒頭、「これほど緊張することはない」と笑いを誘った菊間氏。ですが会場には女性だけでなく、男性も3割弱ほど臨席したことに、驚きを隠せない様子です。

これからの業界における女性の進出に大きく期待し応援すると力説する一方で、単なる懇親の場、情報共有にとどまらず、外へ向けて発信できる団体になってくれたら嬉しいと、共催者である日本旅行業女性の会のメンバーへもメッセージを寄せました。

女性のさらなる活用や働きやすい職場環境をつくるため、JATAは今後も、提言を積極的に発信したく、また（提言となるような）成果を得られる場に、今回の合同勉強会を継続性をもつて取り組みたいと、意欲を述べられました。

JATA菊間会長講演採録 女性が働きやすい環境を 「提言」できる場へ

2013年度は、10年に一度といわれる旅行業法改正の検討年でもあります。現在の旅行業法は、家の外壁に例えるならシミや汚れが目立ってきた状態。これをどう対処するか、ただの塗り替えではなく、新



JATA 日本旅行業協会会長就任から1年、これまで政策検討委員会を立ち上げるなど精力的に活動を推進する菊間潤吾会長

しい家を建て直すような気概で取り組みたい、と考えています。改正案については、JATAの組織内に特別検討委員会を立ち上げて、観光庁へと提言をしていきます。環境認識をしっかりと行つて、JATA加盟各社を守り、収益性向上も念頭に置きつつ、積極的に申し入れをしていく構えです。

とはいえ現実には、消費者庁との兼ね合いがあるため、業法や約款の改正は多難です。これまでは監督省庁とJATAとの間で、こうした議論が重ねられてきましたが、消費者庁が創設されて以降、容易な改正が難しくなっています。

かつて、募集型企画旅行（パッケージツアー）のキャンセルチャージについて提言をしましたが、観光庁には理解を示してもらえなかったものの、消費者庁が首を縦に振りません。そもそも現行の取消料規定自体が妥当であるのか、ルールそのものにも消費者庁が言及しており、



クロアチア政府観光局エドワード片山氏から「日本はリーダーシップをもって観光を牽引してきたが」と今後のめざすべき方向性に質問が及んだ



熱心にメモをとる姿もみられ熱気に包まれたセミナー会場



貸切バスで行く新緑の那須・憧れの二期倶楽部

2013年6月15日(土)
参加者19名(会員18名、ビジター1名)

今年も親睦会の季節になりました。梅雨の時期のため、毎年、お天気が心配なのですが、当日の朝は傘をささなくてもよいほどに雨が上がっておりまして。2013年6月15日、土曜日の朝8時に私たちを乗せたバスは、新宿から那須へ向けて出発です。

乗車したニュー東京観光バスは、JWTTC日帰り親睦会旅行の貸切で何度かお世話になっていますが、今回のバスガイドさんはなんと、2011年11月に実施した栃木・足利の親睦会旅行をご案内くださった高宮陽子さんでした。

途中、羽生サービスエリアで休憩をとりながら、東北自動車道をひた走ること約3時間。憧れの「二期倶楽部」へ到着です。ホテルの皆さんが、笑顔で出迎えてくださいました。

ぼつぼつと雨粒を感じるなか、早速、森のコンシエルジュ・阿久津さんの案内で、広大な森を散策です。ふかふかとしたカーペットのような苔(こけ)、歩いていると漂ってくるハーブの香り。生い茂るワイルドストロベリーは食べてもよく、咲き誇るカモミールは、摘んで客室でハーブティーにしても構わないとのこと。森のなかに佇むツリーハウスや、自然木に仕つらえた木製のプランコ、川での水遊びなど、大人も童心に返って楽しめる趣向にあふれていました。

1986年の開業当時から「にき倶楽部1986」(本館や、コンラッパのデザインによる「NIKICLUB & SPA」(東館)、さらには「アート・ビオトープ那須」では陶芸ガラス工房に併設された滞在型の宿泊施設も、それぞれ見学させていただきました。いずれも落ち着いた雰囲気、癒しの空間であることが感じられます。

特に、それぞれの客室の窓からの景色が印象的で、どの季節にも、おのおの美しさが感じられるような配慮がなされています。

今回は、緑が雨に濡れた、しっとりとした景色でしたが、リスが走りまわる森、夏の日差しが木漏れ陽、紅葉や、黄金色の稲穂、雪景色にウサギの足跡など、四季折々の季節が楽しめるそうです。



ーデンで採れたての野菜に、二期倶楽部オリジナルの卵「滋養卵」をあしらったサラダ、ジャガイモの冷製スープや那須牛のステーキ、そして可愛らしいデザートまで、実に美味しく堪能させていただきました。

あつという間に予定の3時をまわりましたので、名残惜しく二期倶楽部をあとに、ちょうどこの日、グランドオープンした「藤城清治美術館 那須高原」を目指しました。

こちらの美術館では、子供のころに観た木馬座の影絵や、ケロヨンなどのキャラクターだけでなく、89才という齢で、いまなお精力的に制作活動に励んでいらっしゃる藤城先生の作品を拝見いたしました。被災地を何度も訪問され、制作した風景画や、熊本県を催しのために制作された「まもん」などのキャラクターが登場する楽しい絵、水面に映るよう配された花火の影絵など、大きな作品も数多く展示されており、印象的でした。

最後に「チーズガーデン五峰館」で土産を買って、帰路につきました。夕刻ということもあり、高速道路の混雑が予想されましたが、結果はまったくの渋滞知らず。また途中、かなり本降りの雨となりましたが、解散場所の新宿に到着するころには、すっかり上がっていました。さすが、晴れ女軍団！来年度の親睦会も、今から楽しみです。(寺嶋英理子 オレンジマーケティング サービスジャパン)

①～⑦ 緑豊かな那須 NIKI CLUB・二期倶楽部
敷地内には、溪流・二會川のせせらぎが走り、自家菜園・キッチンガーデンやリキュールルーム&ライブラリー、「木階(もつかい)」と呼ばれるツリーハウスもある
⑧ 那須高原・藤城清治美術館
⑨ 那須高原チーズガーデン五峰館

photo ©Chieko Chiba

JWTCの現場から

第1回 広報戦略部の活動紹介

広報戦略部のおもな活動は大きく2つあり、ひとつは対外的な広報活動、もう一つは戦略的な会員の啓発・拡充をミッションにしています。

広報活動の一環として、年3回のニュースレター(広報誌)の発行や公式ホームページの保守・更新、プレスリリースの発行などを行っています。有益な情報を、会員や観光産業に従事する皆さまにお届けできるよう、このたびニュースレターを刷新することにいたしました。今後も魅力ある誌面づくりに、部員全員で取り組んでまいります。

さらに私どもは、会員拡充につながるための啓発活動を実践します。旅の仕事に従事する女性が、より働きやすい環境で、いきいきと仕事に邁進できるよう、横断的な学びの場を設けます。

部員は旅行会社やホテル、ランドオペレーター、文化財庭園の関連団体など所属も多

彩で、企業広報の経験者や経営者、ジャーナリストらも名を連ね、さらには海外拠点に赴任して海の向こうから活動に参画しているものもあります。垣根を超えて和気あいあい、活動を進めています。

今後の観光産業の発展を見据えて、有能な女性人材を数多く輩出できる場として、JWTTCを担い支える部になればと考えています。JWTTC広報戦略を、これからもよろしく願っています。



JWTC ニュースレター 秋号 vol.34

発行日 2013年8月1日
 発行人 戸井川裕美子
 編集長 千葉千枝子
 発行所 日本旅行業女性の会
 編集制作 日本旅行業女性の会 広報戦略部
 印刷デザイン 株式会社 誠晃印刷

広報戦略部の部長に就任して最初に指揮をとったのが、このニュースレターの刷新とホームページのアクティブ化、そしてJATAとの共催勉強会の企画立案でした。

新体制移行にともない、旧広報部は「広報戦略部」と名称も変わり、事業内容も増えました。精鋭8人でのスタートでした。それぞれが仕事を持つなかで、全員が一致協力して知恵を出し合い、新たなものを生み出すことに成功できました。その際には、運営委員会の委員をはじめJWTTC会員の皆さんの温かいご声援、ご協力があったことです。新しいニュースレターの出帆が、このように叶いましたこと、また、新たな取り組みとしてのJATA×JWTTC勉強会が無事、スタートできましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

これまでのニュースレターは会の活動報告という性質にありましたが、今後は、情報にも磨きをかけ、クオリティの高い、外へ発信できうるものへと、変革させてまいります。

明日の日本の観光が、明るいものでありますよう。私たち女性の感性を最大限活かして、業界を牽引したいと考えています。一人でも多くの方に読んでいただけますよう、ぜひ、お知り合いの方にもご配布ください。日々の仕事や暮らしに、元気がもてる誌面づくりを、今後も心がけたいと考えております。(千葉千枝子)

編集一後記

JOIN US!

入会のご案内

私たち日本旅行業女性の会(JAPAN WOMEN IN TRAVEL CLUB、通称JWTTC)は、1980年に発足した旅行関連産業で働く女性の会です。

***会員相互の親睦をはかり、旅行文化の向上に寄与する**
***会員の専門知識、能力を生かし、社会への貢献を図る**

という目的を掲げ、勉強会や親睦会等の活動を行っています。

会員には旅行会社やホテル、ツアーオペレーター、航空・クルーズ、または旅行関連のメディアや保険会社など、ありとあらゆる旅行に関連した企業、団体に所属する女性たちが集い、日々、研鑽を積んでいます。現在のメンバー数は、約70人。会員一人ひとりが業界のプロです。その高い専門知識や経験、技術を、共通の財産として、次代を担う業界女性にバトンタッチしていくことを目標に、「広げよう!人の輪 旅の輪」をキャッチフレーズに、活動を行っています。

入会資格は、まずは女性であること。そして、旅行関連の会社・団体等に勤務していること、この2つです。皆さんも、ご自身の会社から一歩、外に飛び出て、私たちの仲間に加わりませんか?業界を支える女性たちの話を聞くことで、刺激や勇気を得ることができます。

ご興味を持っていただいた方は、ぜひホームページで私たちの活動をご覧ください。
 (http://www.jp-jwtc.org/index.html)お問い合わせや、お申込みは、広報戦略部・千葉千枝子 info@longstaystyle.comまで。皆様のご入会をお待ちしています。

連載 狩野知保のサンパウロ便り

第1回 いざ、ブラジルへ

海外赴任の辞令から1年。「いつ行くの?」と幾度も聞かれ、そのたびに言葉を濁していましたが、やっと「行くなら今でしょ!」のときを迎え、H.I.S.サンパウロ支店に赴任いたしました。

連載1便目は、赴任前出張からスタートです。

25年ぶりに訪れたブラジルは、大きく変化していました。というのも、初訪の1989年当時は、ハイパーインフレの真つただなか。物価の高騰も激しく、米ドルを両替するにも、先週は片手で握れる程度の札束が、今日は両手で一杯という状況でした。経済混乱で治安も悪かったので、旅を満喫というよりは、無事帰国できたことのほうが嬉しかったように記憶しています。

月日は流れ、ブラジルは経済新興国の仲間入りをしました。人々の表情は明るく、かつてほどの緊張感はありません。しかし、出張時にちょうど始まったデモをみて、問題の根は極めて深いと感じざるを得ませんでした。



ところで私には、この出張でどうしても訪れたい場所がありました。それは東洋人街の日曜市です。以前、サンパウロに住んでいたという同級生から、25年前、「リベルダージの日曜市で海苔巻屋を営んでいる友達がいるので、訪ねてみてね」といわれました。「一軒しかないから」といわれたものの、半信半疑でした。さて市場を歩いてみると、本当に海苔巻屋があり、店の奥には、年かさが同じくらいの女性が忙しそうに手伝いをしています。同級生からの紹介だというと、驚きつつも大歓迎。自宅にも招いてくれました。

今でも、あの店はあるのだろうか。今回、うろ覚えのまま市場をぐるぐる歩いてみました。すると、以前はなかったお好み焼き店や焼きそば店が軒を連ね、「やっぱり、もう、ないのかなあ」と諦めかけたそのとき、見覚えのある暖簾が、人混みの先にみえたのです。

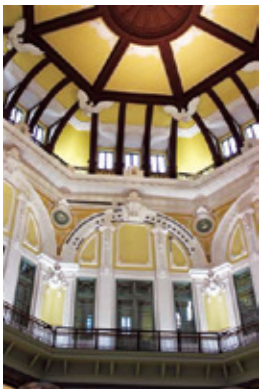
人をかき分け店内へ入ると、そこには懐かしい彼女が、確かにいるではありませんか。店の奥では、日系1世のおばあちゃんがちょこんと座り、2世のお母さんがせっせと海苔巻きを作っています。昔と違うのは、お手伝い役の彼女が、堂々、店を切り盛りしている点。「ミエさんですよ」と声をかけると、友人も遠い記憶をたどり、思い出してくれました。住所がわからなくても、そこに行けば会える。メール全盛の現代だからこそ、このアナログな再会が、旅の醍醐味と感動した一幕でした。次号もお楽しみに。



「東京ステーションホテル」見学&食事会

2013年5月15日(水)

参加者34名(会員25名)ビジター9名)

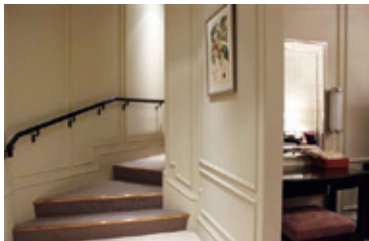


干支のレリーフが復原されたドーム
photo ©Chieko Chiba

東京ステーションホテルは、2006年から東京駅丸の内駅舎の保存復原工事に伴い、時休館していましたが、明治を代表する建築家辰野金吾氏が設計した1914年創建当時の姿を取り戻し、全施設を改装して、昨年2012年10月にグランドオープンしました。JWTCでは、「オープンしたら、ぜひ見学会を」との要望が会員から多く寄せられ、このたび東京ステーションホテル総支配人の藤崎斉様に協力をお願いして、見学会を実現することができました。

当日は3班に分かれて、ホテルツアーに出発です。100年の歴史がある東京駅には歴史を記すポイントも数々あります。例えば丸の内南口ドーム下には、原敬首相暗殺現場のプレートがあります。

コンコースに面した入り口からホテル内に入ると、駅に隣接しているとは思えないエレガントな雰囲気のホテルスペースが広がり、1階にはラウンジとフロント、2階3階が150室の客室を有する宿泊スペースです。客室階には南ドームと北ドームを結ぶ長い廊下が続き、ドームを一周する山



上階に寝室をしつらえたメゾネット



レストラン「アトリウム」で特別にディナーを用意していただいた

手線のような廊下に、客室が並びます。内装デザインは、世界の歴史的建造物を手がけたリッチモンドインターナショナル社によるもので、基調はヨーロッパクラシックスタイルとのこと。

今回ご案内いただいたのは、皇居側丸の内エリアを見渡すパレスサイド、ドームの丸い屋根に沿って配置されたドームサイド、2階建てのメゾネット、そして行幸通りの正面に位置する広さ173平米のロイヤルスイートの4タイプです。

ドーム側の部屋は、カーテンを開けると復原されたドーム壁面やコンコースを行き交う人々の様子を見ることができ、ステーションと謳うホテルならではの客室でした。また、メゾネットはリビングルームとベッドルームが上下階に分かれた、日本のホテルには珍しいタイプだそうです。

建物が国の重要文化財であるため、仕切壁に手を入れることができません。客室の広さは40平米程が中心ですが、どの部屋も高い天井にシャンデ

リアが取り付けられ、窓も縦長窓や丸窓とクラシカルな雰囲気を醸し出しています。各部屋に備え付けのメモ用紙が原稿用紙を模しているのも、川端康成や松本清張など文豪に愛されたホテルならではの思いました。また、南北ドーム周りには客室の他に、3カ所のアーカイバルコニーが設置され、宿泊のお客様に限って、ドームの内装であるレリーフを間近に見ることが出来ます。

ドーム内部と天井には、大鷲の彫刻や8種類の干支のレリーフが復原され、ところどころに戦災で焼けた既存レリーフも再利用されています。

ホテルツアーのあとは、お楽しみのお食事会です。今回は、厚意で、日ごろ朝食専用ラウンジとして使用するレストラン「アトリウム」にて、フランス料理のフルコースをいただきました。アトリウムは駅舎中央部の4階に位置し、復元工事の過程で天井板をはがしたら現れた400平米もの広々とした空間です、9mもの天井高に、煉瓦の壁面が重厚さを醸します。天窓があり、朝食の時間帯には、明るく清々しい雰囲気になることが、容易に想像できます。戸井川会長の挨拶と乾杯ののち、石原雅弘総料理長からお料理の説明をうかがいました。技と工夫を凝らした美味しい料理にワイン、歴史ある素敵な施設と、空間に高揚して、私たちの会話も弾みます。

藤崎総支配人は、グランドオープンの準備期間中からスタッフの方々に、「歴史的背景や国の重要文化財である建物の由来などを含めたストーリーが大切であり、それを語り継がなければならぬ」と語っているそうです。今回のホテルツアーでも、私たちに接してくださったスタッフの皆様が、施設の説明にとどまらず、ホテル

運営委員会からのお知らせ

JWTC勉強会

「青森の食を知る」

青森県観光国際戦略局ならびにA-FACTORY(株式会社)JR東日本青森商業開発)協力協賛のもと、NHKの番組「きょうの料理」でお馴染みの高城順子先生による勉強会「青森の食を知る」を、8月3日に開催しました。この勉強会では、東日本大震災後の風評被害で苦しむ青森県を、食を通じて応援するとともに、仕事で疲れたわたしたち女性を元気づける、魅力的な献立を、素敵なお料理スタジオを会場に実施しました。詳しくは、次号でお届けします。



JWTC有志のための特別イベント

東京水辺ライン「浅草・お台場クルーズ」と浅草・助六の宿「貞千代」江戸情緒溢れるお食事のお誘い

- 日時:2013年8月24日(土)
- 9:45 東京水辺ライン両国発着場集合(10時出船・時間厳守)
- スケジュール:
- 10:00 東京水辺ライン浅草・お台場クルーズ 両国発着所発
- 12:05 浅草二天門発着所着
- 12:30 助六の宿「貞千代」にて会食(15時頃解散予定)
- 参加費:会員9,000円、ビジター10,000円(東京水辺ライン乗船、食事・飲物代込み)
- 募集人員:先着30名
- 申込先:田辺まで メール n-tanabe@keioplazahotel.co.jp もしくは FAX 03-3344-4740 取消料は8月20日以降発生します、ご注意ください。

infomation

鈴木光子会員(二代目会長)による新著のお知らせ



『ピアノリスト』
(仏語原題 Piano chinois)
エディエンヌ・バリエ著
鈴木光子訳
アルファベータ刊
定価1995円 165ページ

中国生まれの美人ピアノリストの演奏を聴いた2人のヨーロッパ人音楽評論家が、彼女に対する賛否両論の批評を、ブログとメール上で戦わせたという珍しい手法の小説で、主人公のメイジンのモデルは、今年4月と6月に日本で演奏会を開いた実在のピアノリスト、ユジャワン・王羽佳です。高尚な音楽論で始められたブログ上の批評合戦は、2人だけのメールの交換になると泥仕合の様相を呈し、最後に年長の評論家があつさりと身を引き、なにやらほっとするような気分になせられます。原題は『中国のピアノ』ですが、日、中、韓の極東3国の西洋音楽活動をテーマにしていることは明らかで、そのため日本語訳では、『ピアノリスト』の題名に変えた、西欧音楽の優位を主張したい著者の意向が、西洋vs東洋という文明論に発展せざるを得ないという点で、問題作だと呼ぶ人もあります。演奏者が美人か

を愛して誇りに思い、歴史や由来など深い部分を理解した上で、それぞれが紡いだ、STORYを取り入れているのが、とても印象的でした。最後に、藤崎総支配人様、石原総料理長様、

新入会員紹介

会員番号438

荻原 久美子

株式会社メリディアン・ジャパン

1998年設立の株式会社メリディアン・ジャパンも15周年を迎えました。

弊社は、定番のエーゲ海クルーズを出発点にギリシャトルコの個人旅行の手配を、2001年からは本格帆船クルーズのスター・クリッパーズ日本販売総代理店を務めております。2010年ごろより、スター・クリッパーズの販売に注力するなかで、JWTCの活動を知りました。そうしたなか、トラベルハーモニーの田窪社長にお声掛けいただき、JWTCの会員に加えていただくこととなりました。

2009年、それまで港区浜松町に構えていたオフィスを、自宅近くの印西市に移しました。2010年には、成田スカイアクセス線が開通し、都心へのアクセスも便利になりました。職住接近の利を活かし、楽しみながらお仕事をしたいと思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。



会員番号439

石割 裕子

京急観光株式会社

このたびJWTCへの入会機会をいただきまして、ありがとうございます。旅行業界からスタートし、航空業界へも少し足を踏み入れ、最近また旅行業界へ戻ってまいりました。ようやく3年目が過ぎようとしております。初めの旅行業務は、カウンターにて接客業がメインでしたが、現在の業務内容は日帰りバスツアーのツアー造成や企画がメインです。旅行業界に長く携わっておりますが、広く浅い知識しかなく、まだまだ新人ですので、多方面でご活躍されている皆様と一緒出来ることを、とても緊張しながらも楽しみにしております。皆様にご教えていただくことばかりかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



アトリウム統括マネージャー石橋様、そして当日お世話になったスタッフの皆様への心のこもったおもてなしに、この場を借りてお礼を申し上げます。(田辺典子 京王プラザホテル)

つ金メタリスト級の演奏スタイルもあって、音楽における「視覚」の意味も、議論の重要なテーマになっています。これはフランス語から訳しましたが、翻訳だからと言って、書いたのは著者だとは言いきれはできないものです。ラッキーなことに、3月末の発刊後すぐ、4月17日の「日本経済新聞」夕刊で、「目利きが選ぶ今週の3冊」に選ばれ、稀有といわれるらつ星(これを読まなくては損をする。ラック)が与えられました。「無垢な批評などあり得ない」というタイトルのこの批評文は、音楽評論家ではなく、風俗史家という肩書きの方が書いています。このあたりに文明論としての面目が現れたかと思えます。また「音楽の友」の6月号は、これは起るべくして起こった論争と位置づけています。音楽の演奏は、interpretすると訳される通り、その音楽をどう解釈するかを表わすものであつて、そこに歴史、社会、政治的な文脈が浮上するの避けられないといわけですね。

7月にはドイツ語でも出版される他、ポーランド語そして当然でしょうが中国語にも翻訳されることが決定したそうです。しかし4つの言語の翻訳本を並べてみても、決してオリジナルのフランス語の文には戻れないでしょう。翻訳は新しく本を書くに等しいといわれますが、これは私の実感でもあります。幸いに日本語訳は難癖をつけられることもなく、読みやすいという評判が多く聞かれ、胸をなで下ろしています。

① 1面から続く

これが日本特有のものであると実感させられます。

OTA（オンライン・トラベルエージェント）の動きが、今、世界中で話題になっています。そうした時代的な背景から、海外を見渡すと、業法や約款に捉われずに伸びている国もあります。例えばオーストラリアでは、旅行業法廃止の動きがありました。ヨーロッパでは、手配旅行についてのしほりを失くして、パッケージツアーだけを法規制しようとする議論にあります。

グローバルスタンダードが叫ばれるなか、これから先の10年を見据えて、日本の旅行業法がどうあるべきか、消費者にとって安心、安全な旅をつくることを真剣に考えなくてはいけないときになっています。旅程保証なども含めて、どのように改善していくか、今後も検討を重ねるつもりです。

JATA菊間会長講演採録

女性力と価値創造産業へのチャレンジ

名古屋支部だより

名古屋支部 第1回勉強会

「栄華を極めた歴史に思いを馳せて〜ペルシャの魅力〜」

元イラン観光局長（現エスアールジー取締役）の茂木松弘氏をお招きして、エキゾチックな響きを持つペルシャ（イラン）のディスティネーションセミナーを、去る2013年5月18日、キャッスルプラザホテル China & Dine「園」において開催しました。

イランは、業界にいる私たちでも、あまりよく知らない国です。隣国、イラクアフガニスタン等々の紛争コースが、NHKや共同通信のテヘラン支局を通じて、繰り返し流されていることから、銃弾や砲弾が飛びかう治安の悪いイメージをお持ちの方も多いでしょう。

とはいえ実のところ、夜中に女性が街を二人歩きできるほど、安全な国なのです。しかも、イラン人はとても清潔好きです。水道水を飲むことができ、衛生面



他国との大きな違いは、女性が髪や身体の線をスカーフやチャドルなどで覆わなければならないこととでしょう。アルコール類は持ち込み禁止で、販売もされていなく、禁酒のお国柄です。また、この国を訪れるすべての人たちは観光客も含めて、イランの風習やイスラム教の教えに従わなければなりません。経済の中心地はテヘランです。ところが観光面ではペルシャ民族発祥の地シラズが、薔薇とワイン、

われわれは旅行代理店という表現をあらため、旅行会社であることを前面に押し出してきました。しかし一部では、代理店的な発想が未だ根強いように感じます。

今後は「価値創造産業」としての考え方を醸成させる必要があると、強く認識しています。環境の変化が著しい時代にあつて、必要とされるのは女性の感性です。マネージメントの層に女性がもっと進出して、中核を担わないとなりません。先進国をみると、いかに女性管理職の比率が高いことか、トップの多くは女性です。

そもそも、一つの業が成り立つまでの過程では男性主導も珍しくありませんが、成熟期を迎え、これからは女性が表舞台に立つことが自然だと考えます。

また、業態によつて多少の差はあるでしょうが、われわれはサービス業からホスピタリティ産業へと進化、変化をしていかなければならないときです。代理店の発想から脱却していく必要があります。具体的には、商品づくりの現場でもいえます。例えば、新路線の開設があつたから、政府観光局の重点プロモーションだから、という受け皿的、便乗的な発想の仕方ではなく、自らがマーケットを創出するよう

に方向転換をしなくてはなりません。存在感を示していく必要があるのです。

旅のプロとしての知識の習得、スキルアップも重要です。ネットで情報が無限に収集できる時代にあつて、旅行会社社員の知識不足が、ひいては旅行会社離れを加速させているといつても過言ではなく、JATAとしては会員社員の知識向上に役立つ場の提供、準備も始めています。白地図を広げて二ひとつを塗りつぶす、そのお手伝いを、これまで旅行会社が行ってきましたが、今後は新しいディスティネーションを開拓するだけでなく、深掘りしていくことを考えなくてはなりません。



勉強会のあと露が関ビルのレストラン・バルバラを会場に懇親会が開催された

JATA×JWTC

JWTC Nagoya

名古屋支部 草次昌子

でも問題なく、安心安全な国です。ペルシャイランの古名を訪れた日本人観光客の大半が、ぜひ、またペルシャを訪れたい」と語ります。そしてアンケートには、「街を歩いて、心優しいイランの人たちと触れあい、感動した」と、おのおの感想を述べます。

1935年から正式国名はイランですが、茂木氏はあえて、文明や猫、絨毯など、ソフトなイメージがある「ペルシャ」を、観光促進には使用しているそうです。

はるか昔、シルクロードを通じて我が国に、色々なものがもたらされました。ぜひ皆さんと、ルーツを辿る旅がしてみたいものです。

名古屋では、復元中の名古屋城本丸御殿の一部（玄関表書院）が、2013年5月29日から公開されました。すべてが完成するまでには、まだ5年ほどかかりますが、今なら復元工事の様子も見学できます。ぜひ、名古屋へお越しください。

によると213でした。

これがきっかけでゴルフにはまり、現在に至ります。もし、疎んじられたり厳しくされていたら、続けられなかったでしょう。あのと、優しく接してくださったパートナーの方々には、今も心から感謝しています。

ゴルフは、私のもう一つの趣味である茶道と、相通じるところがあります。同じコースでプレイしても、同じシチュエーションはなく、その日のプレイ全体、また一打一打が、一期一会です。プレイのたびに季節のうつろいを感じますし、パートナーもその時々で異なります。4人でまわりますが、お正客、次客、お詰め、亭主のように、和やかな会話をしみながら、4人全体のリズムが形成されているのを感じとります。仕事でストレスが溜まっても、コースに出ると途端にイライラを忘れ、気持ちが鎮まるのを覚える点も、茶道のお点前との共通点です。

自分の気持ちは鎮まるのですが、初ラウンドが土砂降りだった縁か、よく悪天候を招いてしまい、「嵐をよぶ女」といわれています。本人は、天候は気にせず、プレイできるだけでシアワセと思っています。四十肩、五十肩の難難辛苦にも耐え、何とかこまできました。平均スコアは、やっと98です。今後も長く続けたいと思っています。

皆さん、ゴルフをやりましょう!今日の仕事と明日の老後のために。

今回は、シィ・エイ・エヌ 木村晃子さんにバトンタッチです。



旅行業界のキーワードは付加価値であり差別化と、よく言われますが、究極の付加価値は心理的な面にあり、てんこ盛りツアー造成とは違います。無駄を削ぎ落とし、よいものだけを磨いていく、感性を大切にしたい仕事だと思っています。

※続きはJWTCホームページをご覧ください。



懇親会の席上、挨拶をするJATAの越智良典事務局長

JWTCホームページを活用しましょう!

JWTC日本旅行業女性の会
ホームページアドレス

<http://jp-jwtc.org/>

JWTCのホームページには、当会の紹介や活動内容、ニュースレターのバックナンバー、会員向けのお得な情報などが掲載されており、会の情報を一挙に知ることができます。ご友人などに入会を勧めるさいにも役にたつ情報が満載です。積極的に活用して、JWTCの存在を広めましょう!



Relay Essay

リレーエッセイ

トップツアー株式会社 山科ほとり(会員番号 399)

「ヤマシナ。旅行の企画を担当して、ゴルフをしないってどういうことか解っているのか?」。まだアシスタントマネージャーだった私に、上司の叱責が飛びました。「業務命令だ。次の伊豆出張ではプレイしろ」。私にゴルフをと上司間で密談が交わされ、密談はさらに伊豆の旅館の方々ともなされ、作戦が練られていました。

さて当日、稲取ゴルフクラブでのこと。土砂降りの雨です。全5組中、私は3組目でした。そのワケは、「自分たちの組以外の人の目に触れないよう、前後を固めた」とのこと。私の組は、例の業務命令を告げた上司と、旅館の若手経営者お二人です。

クラブの握り方を小声で上司に聞いてから、振ってみました。一応ヘッドには当たって、50ヤードくらい前へ。「お〜」と皆さんから拍手をもらい、快感です。私は傘も差さずに、ドライバーを持ったまま、ひたすら全力疾走。あわてて追いかけるキャディさん。「お嬢さ〜ん、クラブを取り替えないと」。そんな調子で、後ろから上司が「ヤマシナ、どけ〜。俺が打つぞ。」と声がかかるまで、ひたすら走ってはチョロッと打ち、また走ってはチョロ。これが面白いのなんの。ごく稀に、ボールが高くあがって飛ぶと、「ナイスショット!山科さん、ゴルフ楽しいでしょ。晴れの日も緑もそよ風も気持ちいいよ。お花も咲いてるよ」。旅館の方々が優しいので、ますます楽しくなりました。

後続組の支部会長さんは、「あのくらい速く走ってくれと許せる」。上司も「ヤマシナは、あの土砂降りで、そんなに楽しかったのか?」と、笑って言ってくれました。ちなみにスコアは、上司のカウン